

平成 22 年度生理学研究所研究会  
糖鎖機能研究会・・・分子レベルでの解明を目指して

開催日：平成 22 年 7 月 1 日(木) — 平成 22 年 7 月 2 日(金)

場所：生理学研究所 山手2号館2階 生理研会議室

(〒444-8787 愛知県岡崎市明大寺町字東山 5-1)

提案代表者：辻 崇一(東海大学糖鎖科学研究所)

所内対応者：池中 一裕(分子神経生理部門)

7月1日(木)

13:00—13:10 開会挨拶：辻 崇一

セッション1 司会 池中一裕(生理学研究所)

13:10—13:35 インフルエンザの糖鎖ウイルス学

鈴木康夫(中部大学生命健康科学部)

13:35—14:00 ムチン型糖タンパク質中の O-グリカンの網羅解析法の開発とその応用

近畿大学・薬学部 掛樋 一晃

14:00—14:25 グルクロン酸転移酵素ノックアウトマウスを用いたマウス初期胚における  
グリコサミノグリカンの機能解析

泉川 友美<sup>1</sup>, 金川 奈央<sup>1</sup>, 綿本 有希子<sup>1</sup>, 岡田 めぐみ<sup>1</sup>, 佐伯 美香<sup>1</sup>, 坂野 雅弘<sup>1</sup>,  
菅原 一幸, 杉原 一司, 浅野 雅秀, 北川 裕之<sup>1</sup> <sup>1</sup>神戸薬科大学・生化学、北大院・先端  
生命、<sup>3</sup>金沢大・学際科学実験センター

14:25—14:50 糖鎖特異的単鎖抗体の発現は細胞死を誘導するか？

山口(藤田)陽子(東海大・工学部・生命化学科)

休憩(14:50—15:05)

セッション2 司会 山口(藤田)陽子(東海大・工学部・生命化学科)

15:05—15:30 無臭ベンゼンチオールを利用した非還元末端からの糖鎖合成

梶本哲也(大阪薬大), 有光健二, 小関 稔, 野出 学(京都薬大)

15:30—15:55 *N*-アセチルグルコサミン転移酵素 III (GnT-III)による APP 代謝制御

萬谷 博 (東京都健康長寿医療センター研究所)

15:55—16:20 ポリラクトサミン合成酵素遺伝子ノックアウトマウスを用いた糖鎖機能解析

梶谷内 晶、成松 久(産業技術総合研究所・糖鎖医工学研究センター)

16:20—16:45 シアリダーゼ NEU3 はフォスファチジン酸により活性化される  
塩崎一弘(鹿児島大・水産・生物化学、宮城がんセ・生化学) 山口壹範(宮城がんセ・生化学)  
宮城妙子(東北薬大・がん糖鎖制御、宮城がんセ・生化学)

休憩(16:45—17:00)

セッション3 司会 梶本哲也(大阪薬科大学)

17:00—17:25 Klotho-related protein を介した新しいスフィンゴ糖脂質代謝経路  
<sup>1</sup>林 康広、<sup>1</sup>伊東 信 (<sup>1</sup>九州大学大学院・農学研究院・生命機能科学部門、現所属 帝京  
大学・薬学部・生物化学)

17:25—17:50 イメージングを利用した糖鎖の新しい機能探索  
深瀬浩一、田中克典(大阪大学大学院理学研究科)

17:50—18:15 真核細胞型シアル酸転移酵素の構造と機能の研究  
辻 崇一 (東海大学 糖鎖科学研究所)

18:15—18:40 ガングリオシドクラスターに結合したアミロイドβのNMR構造解析  
矢木真穂、加藤晃一 (名古屋市立大学大学院薬学研究科/岡崎統合バイオサイエンスセ  
ンター)

懇親会

7月2日(金)

セッション4 司会 長東俊治(新潟大学)

8:30—8:55 アメフラシ由来真菌 *Periconia byssoides* の代謝産物 pericosine 類の  
合成研究  
宇佐美 吉英(大阪薬大)

8:55—9:20 神経再構築とケラタン硫酸  
門松健治(名古屋大学大学院医学系研究科)

9:20—9:45 神経系における HNK-1 糖鎖機能と発現調節機構  
岡 昌吾<sup>1</sup>、森瀬讓二<sup>1</sup>、中川直樹<sup>1</sup>、竹内祐介<sup>1</sup>、森田一平<sup>2</sup> (<sup>1</sup>京大医、<sup>2</sup>京大薬)

9:45—10:10 抱合化によるフィトケミカルの代謝活性化について  
金城順英、土橋良太(福岡大学薬学部・生薬学研究室)

休憩(10:10—10:25)

セッション5 司会 辻 崇一(東海大学)

10:25—10:50 Notch 糖鎖修飾によるリガンド反応性変化の生理的意義  
—T細胞分化をモデルとして— 穂積 勝人(東海大学医学部)

10:50—11:15 糖鎖の構造多様性に影響を与える要因の探索  
長束俊治 (新潟大学理学部生物学科)

11:15—11:40 ERGIC-53/MCFD2 と第 V・第 VIII 因子合併欠乏症  
山本一夫(東京大学・新領域)

11:40—12:05 脳発達におけるフコシル基転移酵素 FUT10 の役割  
Akhilesh Kumar、○吉村武、鳥居知宏、等誠司、池中一裕(生理研・分子神経生理)

12:05— 閉会挨拶 : 池中一裕